

第2回検討会概要

(1) 開催概要

1) 開催日時

平成 27 年 12 月 11 日（金） 13 : 00～15 : 30

2) 開催場所

TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター カンファレンスルーム 4R

3) 議事

1. 第 1 回検討会及び関係省庁からの主な意見と対応方針について
2. 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（骨子）について
 - ① 生態系サービス及び人間の福利の評価について
 - ② 生物多様性の損失の要因及び状態の評価について
 - ③ 生物多様性国家戦略 2012-2020 関連指標からみる愛知目標達成状況の評価について
 - ④ 今後の課題について
3. 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書の公開に向けたスケジュールについて

4) 配布資料

- 資料 1 : 第 1 回検討会及び関係省庁からの主な意見と対応方針
- 資料 2 : 有識者を対象としたアンケートの実施状況及び結果
- 資料 3 : 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（骨子）
- 資料 4-1 : 生物多様性国家戦略 2012-2020 における国別目標の評価
- 資料 4-2 : 数値目標から見た基本戦略の達成状況
- 資料 5 : 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書の公開に向けたスケジュール
- 参考資料: 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 付属書データ集（骨子）



図 -1 第2回検討会 開催状況

(2) 検討会における主な指摘

1) 議事 2-1. 生態サービス及び人間の福利の評価について

i) データとアンケートの書き分け

- ・ データでサポートしているものとアンケートでサポートしているものの分け方が気になる。データ優先というのは問題ないが、定量データの精度にもばらつきがあるため、一律でデータ優先というやり方がよいのかどうか。(委員)
- ・ 逆にアンケートはマイナス先行であることから、アンケートがイメージによって回答される可能性がある。(委員)
- ・ 対象とする生態系を固定していないため、専門家によっても解釈は違いうだろう。(委員)
- ・ 何を示しているのかを記載しておく必要がある。専門家の意識がデータとあっていなく、専門家が間違っているという読み方もできる。読み手によって理解の仕方がブレないように記載には注意の必要がある。(委員)
- ・ データは指標性のあるものを使っているため、一定の信頼度がある。一方で矢印アイコンが独り歩きするのは怖い。(委員)

(ii) 指標と評価と記述の書き分け

- ・ 指標の一部を「わからないから入れない」というのはいかななものか。わからないなら、わからないと明示しておいた方がよいのではないかと。少なくとも項目としては入れておくべき。(委員)
- ・ 生態系サービスの質の話の部分もあり、データの欠落などの理由で評価できないものがあれば、整備が求められるという意味合いから課題に記載できると考える。(委員)
- ・ 森林の気候調節の話は二酸化炭素を中心にやっているが、ヒートアイランド的なものは含めないのか。(委員)

- ・ ブルーカーボンも触れてはどうか。(委員)

(iii) 各項目の評価結果について

i) 林産物について

- ・ 林産物と特用林産物、木材の分けは何か。並び方にも意図があるのか。木材よりも特用林産物が前にくるのは違和感がある。(委員)
- ・ きこのでマツタケだけ取り上げるのは違和感がある。シイタケなどは入れないのか。(委員)
- ・ シイタケは菌床と原木で分かれている。原木のシイタケだけ考慮すればどうか。(複数委員)

ii) 木質バイオマス

- ・ 木質バイオマスエネルギーの扱いは持続的な利用という観点からも入れた方がよいのではないか。(委員)
- ・ 県によっては、森林の減少につながっている事例もあるので、生態系サービスにとってのリスクとしては重要なのではないか。(委員)
- ・ 木質バイオマスエネルギーは、今は一旦減ってもう一度上がりかかっているもので、入れておいても良い。木炭生産量の話は以前あった。(委員)
- ・ 木質に限定せずにバイオマスのマテリアル/エネルギー利用ということで入れてはどうか。(委員)

iii) 水質浄化、大気調整、土壌調整

- ・ 水質の話はしないのか。水量調整機能だけでは不十分でないか。(委員)
- ・ 大気調整も同様であるが、NO_x、SO_xとも元々の大気中の量が減っているので、サービスが減少しているわけではない。(委員)

iv) 多様度の指標

- ・ 漁業種の多様性はどうやって算出しているのか。多様な方が(常に)良いというのか。漁獲量の多様性を生態系サービスとすることに、違和感がある。(委員)
- ・ 沿岸漁業と遠洋漁業と分けてはどうか。(委員)

v) 土壌調整

- ・ 土壌の調節という言葉に違和感がある。土壌の保持と流出防止と分けた方がよいのではないか。(委員)
- ・ 土砂崩壊であれば安全安心のイメージである。(委員)

vi) リン酸維持量

- ・ リン酸吸収について、東北の火山灰土壌は世界的にも特殊なので、考慮が必要である。(委員)

vii) その他個別事項

- ・ P104のキーメッセージの一番下は国内の資源を最大限に活用という表現は、「有効に」程度にすべき。(委員)

2) 議事 2-2. 生物多様性の損失の要因及び状態の評価について

(i) 第2章と第3章の関連付け

- ・ 第2章と第3章の関連をどう取っていくのか。今のところ完全に独立しているが、適宜第3章で第2章の部分を引用していくとわかりやすいではないか。(委員)

(ii) 各項目の評価について

i) 農地生態系

- ・ 狩猟者数の数を指標として取り上げた意図はなにか（狩猟者の育成に関するものか、鳥獣害の抑制に関するものか）。これはどちらかということ5年前の議論について伺いたい（委員）
- ・ こだわりがないのであれば、第2の危機に入れた方が良いのではないか。（委員）
- ・ P18、19で節足動物（昆虫）がないのが気になる。（委員）

ii) 海岸生態系

- ・ 震災後の海岸の変化については書けないのか。震災の後の海岸の堤防等。（委員）
- ・ 震災に対しては、生物多様性センターで膨大なデータがあるので、記載した方が良い（委員）
- ・ マイクロプラスチックが話題になっており、最近5年の動きとして触れてほしい。（委員）
- ・ P75の河床低下の図は、オリジナルの図では、海岸・海浜の後退が記載してあるものがあるので、それを使った方が良いのではないか。海岸部分で図を再度引用すればよい。（委員）

iii) 都市生態系

- ・ City Biodiversity Outlook が2年前に出ているので活用すべきであろう。（委員）
- ・ 都市生態系に関しては最近の動きもあるので触れてほしい。（委員）
- ・ 東京都市圏という言葉の使い方に注意が必要。東京都を都市圏というのは、1都6県にまたがる東京通勤圏のことを言う。東京都特別区とはまた意味が異なる。東京都市圏ということで見ると、特にバブル期以降は地域の農地が全部つぶれて都市化したということが大きな動きで、これは1990年代まで続いていた。（委員）

iv) 第4の危機

- ・ 気候変動への対応策と適応策のうち、適応計画が閣議決定されているので引用した方が良い。（委員）

v) 河川生態系

- ・ 樹林化、砂礫地の減少について述べた方がよい。データはあるが、ここに載せて良いのかわからない。実際には砂礫地に依存する種の減少が生じている（委員）
- ・ ローカルでも樹林化等の変化については、トピックとして載せておくは良い（委員）

3) 議事 2-3. 生物多様性国家戦略 2012-2020 関連指標からみる愛知目標達成状況の評価について

(i) 個別の項目<水質>について

- ・ 水準が低下しているというよりは、横ばいの方が正しい。（委員）
- ・ 環境基本計画では、統計的に何%変化した場合は矢印を上向きにするなどというところで書いている。そちらも見ていただく。（委員）

(ii) 中間評価全体にかかること

- ・ 指標は固定なのか。指標によっては制度が変わっており、データの内容が変化してくるものがある。（委員）
- ・ 2020年までの到達状況、到達見込はどうか。上を向いているけれど達成できないのか、今のままいけば達成できるのか。（委員）
- ・ GBO4の場合にはみな達成ルートに乗っているか、それを上回っているか、下回っているか、だめになっているかという4つで評価している。（委員）

(iii) 前半部分との整合について

- ・ 国別目標の評価は、生態系サービスの総合評価の中にどういうふうに入れるのか。（委員）
- ・ 第Ⅱ章でいろいろな対策の紹介をしているがこちらの指標と対応しているか。（委員）
- ・ 損失の対策にこの指標が位置づけられるか、施策としてリンクできるか可能であれば入れるのが好ましい。（委員）

4) 議事 2-4. 今後の課題について

(i) 全体にかかること

- ・ 前の2章3章で出された課題と最後にまとめられている課題がリンクしているのか？作業段階で課題に反映されていると思うが、読み手に伝わるように記載いただきたい。（委員）
- ・ 1節と2節を変えてはどうか。まずは条件を整備して、それを達成するための課題というところではどうか。（委員）
- ・ 対応が難しいかもしれないが、課題に対応する主体が明示されていないので、整理した方がよい。政策的な課題なのか、研究者の課題なのか。（委員）

- ・ 保全上の問題点あまり整理されていない。生物多様性を維持するために、本当に保全が必要な場所はどこかというのは必要でないか。(委員)

(ii) 個別の記載内容

- ・ 遺伝資源は生態系の重要性を考えるとときに重要であるし、国際的にも重要性が評価されてきている。今度課題として遺伝資源の評価が必要な要素と考える。微生物についても、評価の必要性を記載すべきでないか。(委員)
- ・ 遺伝資源は、トレンドは評価しにくいだが、今後の課題としている。(事務局)
- ・ 生物多様性の構成要素の最たるものではあるので、本文でも BOX なり、何らかの形での記載が必要ではないか。(委員)
- ・ 自然共生圏の書き方も、実際には水源税も含めて、都道府県レベルでは基本的に大分やっているの注意した方がよい。(委員)
- ・ 資源へのアクセスの話(社会的資本)の話を記載した方がよいのではないか。(委員)
- ・ SDGs との関連で課題を整理するというのは考えとしてはあり。(委員)
- ・ 自然資本の話も、ストックとフローの関係性も明示していかないといけないのではないか。ポテンシャルも重要だが、ストックもしっかり焦点をあてる。(委員)